開催報告

第1回日本表面真空学会若手研究会

國 貞 雄 治*

北海道大学大学院工学研究院附属エネルギー・
マテリアル融合領域研究センター

☎ 060-8628 北海道札幌市北区北13条西8丁目

(2019年1月15日受理)

The 1st Young Researchers Workshop, The Japan Society of Vacuum and Surface Science

Yuji KUNISADA*

Hokkaido University, Sapporo, Hokkaido 060-8628

(Received January 15, 2019)

2018年11月22日に甲南大学岡本キャンパスにて「第1回日本表面真空学会若手研究会」が開催され、21名の方に御参加頂いた (Fig. 1)。今回の研究会は第4回放射光学会若手有志研究会との合同開催である。

本研究会の目的は、表面科学・真空科学がカバーする広範な研究分野を横断して研究交流を図ることである。特に研究活動を始めて日が浅い大学院生や若手研究者の知識や技術、人脈は偏りがちである。そこで、2010年より若手研究者（大学院生）の有志を募り、表面科学・真空科学をキーとする分野横断型の若手研究会をこれまでに8回開催してきた。合併以前より日本真空学会と日本表面科学会の共催事業として御支援を頂いており、本年度からは日本表面真空学会若手部会の主催行事として開催している。

本研究会では、各分野の第一線で活躍する若手研究者を講師として招聘し、質疑応答を中心とした講演（講演20分、質疑応答40分）をお願いしている。このような講演スタイルは、「参加者が『聴く』だけでなく積極的に質問やコメントをすることで、参加者同士で大いに刺激を受ける場を提供したい」、「講演者が時間の制約を気にすることなく、知見を披露できる場を提供したい」という理念に基づいたものである。また、講演者の皆様にご協力頂き、参加登録者が事前に講演資料を閲覧できるようにし、予習をして講演に臨み、勉強効果を高められるように配慮している。

Fig. 1. (color online). Photo image of the workshop.

今回の研究会では、5名の先生方に講演して頂いた。武田さくら先生（奈良先端大）には、半導体反転層中の電子状態に関する角度分解光電子分光と理論計算を組み合わせた研究成果を御講演頂いた。三輪寛子先生（北大）には、 μ SRを用いた酸化チタンの構造解析や欠陥・不純物に関する研究成果を御講演頂いた。洗平昌晃先生（名大）には、様々な二次元結晶の安定性や水素吸着特性に関する第一原理計算の研究成果を御講演頂いた。芦野慎先生（金沢工大）には、AFMを用いたカーボンナノチューブの機械特性測定に関する研究成果を御講演頂いた。鈴木誠也先生（豊田工大、現：物材機構）には、グラフェンと銀ナノ粒子を組み合わせた高耐久性表面増強ラマン散乱基板に関する研究成果を御講演頂いた。40分という質疑応答時間でも質問やコメントが途切れることなく、活発な議論が行われた。

その後、キャリアプログラムとして「どうやって今の研究テーマにたどりついたの?」というテーマでパネルディスカッションを行った。講演者の方々に自身の研究テーマの変遷や、「研究テーマを継続するか、変更するか」という決断をした時のエピソードなどをご紹介頂いた。学生からの研究生活に関する質問なども飛び出し、普段あまり聞くことができない大変刺激を受ける内容であった。

最後に参加者によるポスターセッションを行い、参加者同士の活発な情報交換や議論がなされた。

なお本研究会には、入田賢（東京理科大）、小野田穰（アルバート大）、勝部大樹（阪大）、木内久雄（京大）、武安光太郎（筑波大）、永村直佳（NIMS）、丹羽秀治（筑波大）、長谷川瞬（北大）、南谷英美（東大）、山崎篤志（甲南大）に運営委員として参画頂いた。

* E-mail : kunisada@eng.hokudai.ac.jp